



美術

★オルセー美術館展

「モデルニテ・バリ・近代の誕生」
4/13(土)〜6/23(日)
神戸市立博物館

TEL078・391・0035

一般12000円 高大生9000円

世界屈指の質と量を誇る印象派絵画で有名なオルセー美術館。絵画のほか、彫刻、工芸、建築、デザイン、写真などあらゆる分野におよぶ近代美術の数々が、世界で初めて総合的に紹介される。

今回は、19世紀後半のバリを「モデルニテ（近代性）」をテーマに切り取り、「自然の呼び声」「レアリスムとオリエン



ゴーギャン「タヒチの女たち」

タリスム」「近代都市」「芸術と産業」「アール・ヌーヴオー」「セザンヌからナビ派へ」とい

う6つのセクションに分けて概観するもので、マネの「バルコニー」やゴーギャンの「タヒチの女たち」など美術の教科書や画集で馴染みのある名作が数多く出品される。

★創作・佐藤悦枝展

3/8(金)〜14(木)
がつれりあ・馬皿

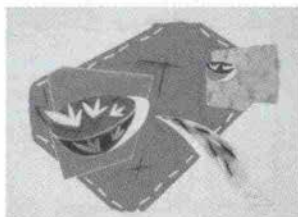
TEL078・871・8811

★片山みやび展

3/13(水)〜18(月)

神戸阪急美術館

TEL078・360・1231



片山みやび「宴はじけて」

★海文堂ギャラリー

TEL078・331・4467

3/5(火)〜12(火)

山崎朔三展

3/13(水)〜22(金)

中島由夫展

3/23(土)〜29(金)

知念正文展

3/30(土)〜4/12(金)

常設展



演劇

★「歌うシンデレラ」

3/29(金)

新神戸オリエンタル劇場

TEL078・412・3008

(劇団ふおるむ)

当日2800円 前売2500円

おとぎ話とはちよつと違う、何か変なシンデレラ、どこかおかしい長靴をはいた猫……。不思議なことやおもしろい話が好きで大人と子供のための芝居を劇団ふおるむが贈る。1年5か月ぶりの本公演は、営利を目的としないノンプロフィット演劇祭イン新神戸第1回参加作品。親子ペア券は3500円(前売のみ)。■チケットプレゼント! 102ページをご覧ください。



別役実作「歌うシンデレラ」



音楽

★小笠原京子ピアノリサイタル

3/17(日)2時

神戸朝日ホール

当日3000円 前売2500円

TEL078・331・6362

★伊藤勝ピアノリサイタル

3/20(水・祝)4時

神戸文化ホール・中ホール

当日3000円

TEL078・351・3535



スポーツ

★オリックスオープン戦

グリーンスタジアム神戸

3/7(木)VSヤクルト

3/9(土)VS巨人

3/10(日)VSロッテ

3/12(火)VSダイエー

3/13(水)VS横浜

3/14(木)VSヤクルト

3/26(火)VS阪神

★オリックス公式戦

3/30(土)VS日本ハム

3/31(日)VS日本ハム



映画 (変更の場合あり)

映画館・問合せ先		9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31/ 1 2 3 4 5 6 7 8 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 祝 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月 火 水 木 金 土 日 月																											
★神戸朝日ホール	078-331-8538 <small>〔神戸映画サークル協議会〕</small>	市民映画劇場3月例会 ノーバディーズ・フル (3/22・23)																											
★三宮シネ・フェニックス1	078-392-0270	ベイブ														トイ・ストーリー													
★三宮シネ・フェニックス2	078-392-0271	ウルトラマンゼアス 甦れ!ウルトラマン ウルトラマンカンパニー																											
★三宮シネ・フェニックス3	078-392-0275	岸和田少年暴走隊														ベイブ													
★三宮東映	078-391-6757	ドラゴンボール〜最強への道 近所物語																											
★三宮東映プラザ	078-391-6758	ニクソン														ジュマンジ													
★阪急会館1	078-321-3351	セブン														ブローケンアロー													
★阪急会館2		カットスロート・アイランド														(次回予定) モータル・コンバット													
★三劇	078-321-3355	ドラえもん・のび太と銀河超特急 ドラミ&ドラえもんズ〜ロボット学校七不思議!?																											
★アサヒシネマ1	078-251-9877	デッドヒート																											
★アサヒシネマ2		トゥルーナイト														トイ・ストーリー (日本語吹替版)													
★アサヒシネマ3		バリのランデブー														バスケットボール・ダイアリーズ													
★ビック映劇	078-221-1388	暗殺者														花嫁のパパ2													
★シネモザイク1	078-360-0700	セブン (次回予定) カジノ																											
★シネモザイク2		アメリカン・プレジデント														ブローケン・アロー													
★シネモザイク3		ドラえもん・のび太と銀河超特急 ドラミ&ドラえもんズ〜ロボット学校七不思議!?																											
★シネモザイク4		デンジャラス・マインド〜卒業の日まで																											
★a b シネマ1	078-360-6010	ベイブ														トイ・ストーリー<レイト21:15>スローガン (3/24~)													
★a b シネマ2		Shall we ダンス?														コピーキャット													
★新劇会館	078-575-8808	クリムゾン・タイド マディソン郡の橋				パッドボイズ				サイボーグコップ3 ザ・マシーン				デスベラート				ブレイブハート/大陸英雄伝 /秘密指令				成人映画				怒りの逃亡者 SCORE テロリストゲーム2			
★パルシネマしんこうえん	078-575-7879	蟹崎いの亭主 仕立て屋の恋				恋人たちの食卓				彼と彼女の第2章				ターミネーター2 レッド・ブロンクス				マスク バットマン・フォーレバー											
★福原国際東映	078-577-5282	日本侠客伝・花と龍 まむしの兄弟・悪役十三回 男はつらいよ・寅次郎紅の花/他1本				新・仁義なき戦い 日本侠客伝 ひとり娘/他1本				男はつらいよ/他3本																			
★板宿東宝	078-732-0472	ドラえもん・のび太と銀河超特急 ドラミ&ドラえもんズ〜ロボット学校七不思議!?																											
★板宿東映		ドラゴンボール〜最強への道 近所物語 <レイト19:00>Shall we ダンス?																											
★西瀬劇場	078-871-2890	ウルトラマンゼアス 甦れ!ウルトラマン ウルトラマンカンパニー 成人映画																											
★カナートホール	078-967-5101	ドラゴンボール〜最強への道 近所物語<レイト17:30>ダイハード3 (3/29) 不滅の恋 (3/30~)																											
★ベレーネシネマ		ドラえもん・のび太と銀河超特急 ドラミ&ドラえもんズ〜ロボット学校七不思議!? <レイト17:30>Shall we ダンス? (ハル)																											
★西神オレンジシネマ1		ドラえもん・のび太と銀河超特急 ドラミ&ドラえもんズ〜ロボット学校七不思議!?																											
★西神オレンジシネマ2	078-991-8439	ドラゴンボール〜最強への道 近所物語																											

淀川長治
映画評論家



アメリカ映画の黒ダイヤの
香りが胸を刺す映画

「カジノ」

一九九五年アメリカ映画「三時間五十九分。マーティン・スコセッシ監督の野心大作。この監督は「ミーン・ストリート」「タクシー・ドライバー」「グッド・フェローズ」といつもアメリカの黒い影を追うシャープな演出の監督で、「レイジング・ブル」(八〇)のときこの映画の主役のロバート・デ・ニーロと来日したが私はこの映画で何キロカの体重を増やしたというデ・ニーロと食卓とともにしたのでとなりのテーブルのスコセッシ(ずいぶん小柄でした)とはあまり話し合わなかった。そのスコセッシのこれは大作である。スコセッシは黒沢監督の「夢」でゴッホを演じていたが見るからにやさしそうな人だった。その彼の今度は三時間に近い「カジノ」。三時間ではへこたれるかと思いきやオドロキモノノキの感じで見とれきつ



シャロン・ストーンは本作品でゴールデングローブ賞
主演女優賞を受賞

た。「カジノ」はご存知、ばくち場。ルーレットとトランプとで人間の欲をつりあげる。この「カジノ」はそのアメリカの本場のネバダの大ばくち場。「悪かなる妻」のストロハイム監督描くモンテ・カルロの大ばくち場も驚いたがこれは一九九五年いま現実のカジノ風景。このネバダのカジノは一九〇五年、思えば古く明治四〇年ごろに砂漠のど真ん中にこのカジノを計画した。スロット・マシンもいっぱいならぶ。去年だったか、ハワイの郵便局員がスロット・マシンでスリー・セブンを出して一〇億円からの金をとったという。ディラーというトランプの札くばり、あるいはルーレットのサークルを廻転させてのサイコロころばし、すべて何万円、何千万円、大ばくちでこのばくち場も四方八方いかさま客に目をひからしてしらべている。見つけるとそのいかさま師の両手の指を叩きつぶしてしまう。とにかくホールは札と金の渦という感じ。

ギャングあがりのデ・ニーロが女ディラーのシャロン・ストーンにのぼせあがりその結婚申し込みに何百個という黄金のプレスレット、ダイヤモンドの指輪、エメラルドのブローチ。手さげトランクいっぱいこの黄金のプレスメントにシャロン・ストーンはニヤリ笑って結婚OK。ところがこの女、以前からヒモのジュームズ・ウッドがこびりついていてときに密会。そのかくれヒモを注意したジョー・ベッシをシャロン・ストーンは手れん手くた



愛と裏切りに彩られた壮大なドラマが展開していく

で誘いこみ自分のベッド相手にひきこんでしまう。

この映画、このシャロン・ストーンがすごい。男がいないと生きていられない。男がいても他の男との火遊びがやめられない。この女に扮したシャロン・ストーン、その衣裳、そのしぐさ、見るからに商売女あがり。そして衣裳がいい。華やかなドレスじゃない。もう男相手に遊び疲れた夜の女のそれも上等クラスの女のそのドレスのくずれ着がすばらしい。

映画はこのカジノの裏側というか売りあげの経理場というのか、ようするにばくちの掛け金の運び、『はじび』とは金庫におさめるその流れへゆく金貨札束の山のそのすごさ。もうここでは「金」がすべて。それでデ・ニーロを裏切った男、これが見つかって叩いて叩いて殴って殴って、ガンをいっさい使わないで叩き殺す。しかしまだ全身が血だらけのそのまだかすかに生きている男をそのまま砂漠の砂の穴にほり込んで、つまり、生き埋めに



本作品でスコセッシとのコンビが8本目になるデ・ニーロ

がかれた演技を見せているが今度のギャングあがりのデ・ニーロの友人がきわだって巧い。彼は「ホーム・アローン」ではおかしな二人のギャングのひとりに扮していたという演技の幅もひろい。要するにスコセッシ（四十七才）というイタリア系アメリカ人のアメリカの影を常に見つめたその目のするどさが今回の「カジノ」では本舞台の派手さで演出されているというスコセッシの野心が見事貫ぬかれているのであった。

そしてこの映画最高のもうけ役はシャロン・ストーン。女のずるさとこわさが見とれるはかりのすぐれた演技で演じられ、最後はクスリ漬けのどろんこのあえぎ、それをおぎなう酒の中毒。むかしならかかる役がらを毒婦と呼んだが今日現在これをどう申しいいか、『悪の花』とでもいうのであろうか。そしてこのロバート・デ・ニーロの扮するサム・ロスステインこの男をカジノのエースと一言で呼ぶカジノの生き神。実際にいた男ともいわれている。とにかく、映画はアメリカのこの今も生きて呼吸をしている悪の花園カジノをこのように裏の裏から見せるところ、これがまた映画の面白さ。いまアメリカのアメリカらしい監督（映画作家）が少ない。スコセッシは本物のアメリカを描く貴重な監督だ。

してしまふ。カメラは「J・F・K」のロバート・リチャードソン。シャロン・ストーンは「スベシャリスト」のデ・ニーロの相棒のちにシャロン・ストーンに誘い落とされるジョー・ペッシ。彼は「J・F・K」「パブリック・アイ」「ブロンクス物語」とみ

ポケット ジャーナル



★神戸に緑を―と「ひょうこ
グリーンネットワーク」

「日本中の人が阪神間に緑と花を贈ろう」と、建築家の安藤忠雄さんたちが「ひょうこグリーンネットワーク」の運動を始めた。一口一円で、二十五万本の木を二〇〇年までに被災地に植えようという計画。既に三菱信託から一〇〇〇万円を始め、多くの企業や県、市、町から協力の申し出があるという。

二月に北野異人館街にコブシが植えられたが、復興住宅のほか、公園、広場、街路、堤防などに植樹し、シンボルの並木や森を作っていく。苗木の希望者は、兵庫県民会館内「ひょうこグリーンネットワーク」(078・321・2131)へ。



安藤忠雄氏

★中国・雲南省地震被災地に
民族人形展示会で応援



気品漂う民族人形

中国、雲南省で発生した地震災害に何か手伝えることはないかと、フオーツフオーラマジックが展示会を企画。収益金をお見舞に贈るという主旨で、京都在住の創作人形作家、森小夜子の人形展を開催する。人形を創り続けて20年近くになる森さんは、10年前前シルクロードに興味をもったことをきっかけに、現地少数民族に注目。彼らをテーマとした創作をスタートさせた。今回これらの人形を通じて、被災地の人々の役にたてればと、展示会実現の運びに。親から子へと受け継がれるという民族衣装を身につけたすばらしい作品の数々が展示される。

期間 平成8年3月9日(土)から3月15日(金)まで午前11時～午後4時
*ただし初日は午後1時から、最終日は午後4時まで。
会場 フォーツフオーラマジック(西宮市菊谷町4・24) 問い合わせ
人形工房アイトワ
電話075・881・5521

★ジャルカップ・レコバ・フ
アイナルが神戸ユニバに戻
てきた

南アメリカサッカー連盟主催の公式試合、「JALCAP 96 RECOFINA」が発祥の地、神戸に帰ってきた。本大会は89年「リベルタドレ杯」と「南米スーパーカップ杯」の優勝チームが南米年間最優秀チームを決定する「レコバ」としてスタートした。ところがファンの過剰なまでの応援に、第2回は中立国の米国・フロリダで開催されることになった。第3回目からは日本航空株式会社特別協賛を決定。開催国を日本に移し、「JAL CUP」として神戸総合運動公園ユニバー記念競技場で92年4月19日に初めて開催されたが、昨年は阪神大震災の影響でやむなく東京に会場を移して行われた。今年は95リベルタドレスカップで優勝した、ブラジルのグレミオと95年南米スーパーカップで優勝したアルゼンチンのインデペンディエンテで今年の決勝戦が開

★誕生日ありがとう運動
私の出会った宝子たち(34)



—Kちゃん、早くいらつしやい—
Kちゃんは、二十三才。二年前までは、気のむいた時ひよこつと園に顔を見せていた。いつも同じ場所ではばらくじつと立っていて、上ぐつに替える時、一気にターッと走って、連絡ノートを出す。彼の行動は、パターン化されていて、それが邪魔されると、パニックをおこす。いつもは黙っているのに、じだんだを踏んで大きな声で「マンマ」と言う。私には「マンマ」と聞こえたが、彼は「ママ」と助けを求めているのかもしれない。自閉的傾向の強いKちゃんは、一度行動がパターン化されると、それを覚えることは、むずかしい。二年前から、昼と夜が反対の生活が続いている。夜、そつと覗くと、ひとり何かを思い出しながケラケラ笑ったり、冷蔵庫の中から好きな物を出して食べたり、自由気ままに自分と世界に浸れるから、きつと昼の生活に戻りたくないのでしょう。気持ちにはわかるけどKちゃん。仲間みんなが待っているから、早く園に、元氣な顔を見せてくださいな。誕生日ありがとう運動本部
〒650神戸市中央区福通四丁目二一
二 菊水模型ビル3階(淡川神社西)
電話&FAX078・360・1257



神戸にサッカーブーム来るか

催される。サッカーの本場、南米チームがどんな技を披露してくれるか大いに楽しみだ。また、兵庫県の子どもたち千人を無料招待し、春頃は両チームの選手、コーチ陣が「自分たちのいい技を見せてあげることが一番のプレゼント」と直接、子どもたちにサッカー教室を開いてくれることにもなっている。

開催日時 96年4月7日(日) 13時キックオフ

会場 神戸市総合運動公園ユニバー記念競技場

主管(財)日本サッカー協会、兵庫県サッカー協会

入場料 SS席¥6000 S席¥4000 一般席 大人¥2000 高校¥1000 小中¥500 (いずれも前売り料金)

チケット発売所 JR西日本みどりの窓口、「あ、チケットピア、チケットセゾン他

問い合わせ先 JAL CUP 96事務局 078・271・8930

★シューベルトにこだわった 烟儀文さんの演奏会

第24回ブルーメール賞音楽部門を受賞した声楽家・テノールの烟儀文さんのシューベルト歌曲全曲演奏会が2月10日、大阪倶楽部で行われた。3年前からシューベルトの600曲すべてを演奏しようという4回のペースで演奏会を開いていく。今回のゲストはソプラノの白川深雪さん、ピアノは岡原慎也さん。素敵な歌声が会場をつつんだ。次の演奏会は5月18日。シューベルトにはまるのも悪くない。



煙 儀文さん

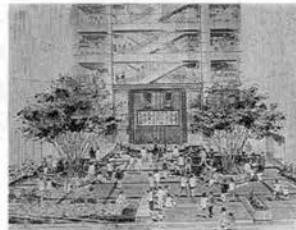
★そごう神戸店、5月に新オープン

そごう神戸店が、当初計画より三カ月早く五月上旬に本館建物の修復が完成全面的に営業を開始することになった。

新しい本館は、三ノ宮駅からの横断陸橋の突き当たりの二階部分に約五〇〇平方メートルの公開空間を設けた設計で、樹木や花壇、ベンチをおいたゆとりの広場になる。広場に面した本館の壁には、日

本で最大規模のからくり時計が取り付けられる。

全面再開後の店舗面積は本館、新館合わせて四万一千平方メートルで、震災前の八五%になる。新店舗は、団塊の世代を中心とした新時代の百貨店を目指すという。



そごう神戸店完成予想図

★「UCC上には上のスーパープレゼント」

UCCがビッグなプレゼントを実施する。UCCの「スーパーオリジナル」「ブラック無糖」「缶コーヒーオリジナル」についている応募シールでホーキンスのブルゾン、アウトドアブーツが当たる！缶コーヒーのヘビュユーザーのあなたは、ぜひとも集めて応募して欲しい。

(応募方法) 右の商品についている応募シール5枚を1口とし、応募ハガキまたは官製ハガキに貼って郵便番号、住所、氏名、年齢、性別、職業、電話番号、ご希望の商品を明記の上、左記の宛先にお送り下さい。

(宛先) 〒100 91東京中央郵便局私書箱96号「UCC上には上のスーパープレゼント」係

■神戸の本棚 ★写真集「阪神大震災」 長島義明

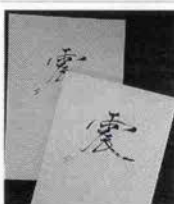


あの一月十七日、大阪・門真に住む写真家長島義明さんは、阪神高速道路神戸線土佐堀出口から歩いて神戸に向かった。車は一台も走っていない。それから十日間、写し続けた写真を、大阪・吹田市のタウン紙「バースアイ」が、被災者やボランティア六十三人の手記を加えて編集した。

写真に写されている私たちの表情は、肉親や家を失った深い悲しみに包まれながらも、共に生き抜こうとしている静かな覚悟が読み取れる。

(バースアイ編集室/2000円)

★阪神・淡路大震災記録集 「震」神戸市医師会



題字は寺川敏雄神戸市医師会事務局長

大地震発生と同時に救助活動を始めた職業人は、消防士、警察官と共に、医師、看護婦たちであった。外科、内科、麻酔科、小児科、産婦人科、精神科、さまざまな持ち場の医師たちが奔走した。一三〇人の医療関係者の記録は、災害にどのように備えられるべきのか、改めて考えさせられる。

(神戸市医師会発行/非売品)



キャンペーン対象商品

東京都港区浜松町1-18、16住友友浜
松町ビル3階UCC上島コーヒ
株式会社 広報担当
TEL03・544000・55544
FAX03・544000・55533

★「若いもんにはわかんねえだろな」

人生折り返しからの暮ら
しの知恵を、15周年を迎え

た「老人問題実践研究会」
が、毎日新聞に連載した、高
齢者問題のコラムを上梓。

(第三書館)会員は、稲垣裕子、
大地洋志、奥村健二、小倉、
鎌田哲夫、高村澄子、中田篤
彦、永野良子、英房英 棧、
早川ちずるさんら、医師、弁
護士、建築家などの専門家。

阪神・淡路大震災の問題にも
果敢に取り組んでおり、信用
できるチーム。

(1,500円)

★「うまいぞベトナム」
初のベトナム料理読本

旅行ジャーナリストの大地
尚子さんとNHKアナウンサ
ー三浦行義さん夫妻が「食の
原点」を追い求めて世界各地
を歩き、ベトナム料理の虜に
なった。

日本で初めてのベトナム料
理の現地取材(約一ヶ月)の
末「うまいぞ!ベトナム」
を出版。

中国とフランス、両国の統
治下にあった歴史がベトナム
料理の粋。一月二十九日に大阪
で出版記念パーティーが開か
れた。



三浦・大地夫妻

う呼称が罷りとおつていた。

「月刊神戸っ子」も三号雑
誌やでと出版の継続が危ぶま
れたのである。この常識を越
えたいと挑戦した。

司馬先生の執筆は続いた。

キラリと光る、独自の司馬史
観は素晴らしい光芒を放つてい
た。この一本の原稿が神戸文
化を貫いた。そして「月刊神
戸っ子」は続いて刊行できる

基盤ができた。奇しくも今年
は35周年を迎えることができ
た。これもひとえに、司馬先
生の一文があったからである。

慎んで先生のご冥福をお祈り
申し上げます。(小泉康夫)

花時計



「ここに神戸がある」
追憶

「月刊神戸っ子」にとつて
育ての親のおひとりである、司
馬遼太郎先生が逝去された。

昭和三十六年春に「月刊神
戸っ子」が創刊された頃、当

●KOBE POST

★須磨寺管長、兵庫県国際交流協会友
の会会長の小池義人様が、二月十二

(月) 渡船中のインド、ボンベイ市で
急性心不全のため急逝されました。
ご家族は二月十六日、現地の日本山妙法
寺で荼毗にふされ、国内では副住職の
小池弘三氏を喪主として、三月十三日
(水) 午後二時より本葬が須磨寺でと
り行われる。合掌

★三月十八日(月) 午前十三時三十分
十一時三十分、小原流盛花記念セン
ター(家元会館)東灘区住吉山手四
十一・七号で、三世家元故小原豊雲氏
の一周忌献花式が行われます。

★財団 兵庫県フアラワーセンター協
理理事長池田清和氏より、三月十六日午
前十一時から、開園二十周年を迎え
「96ひょうご花のカーニバル」五月六
日迄開催。(兵庫県加西市豊倉飯盛)

★(株)大広神戸営業所(宮崎芳治局
長、二月十三日(水)より旧居留
地のKDD神戸ビル9Fに移転。
〒650中央区京町83番地
電話078(3)3533

★日商岩井KK神戸支店の森弘成支店
長が一月よりKKベストマツチに出
向、後任に磯好忠支店長が就任され
★三月九日(土) 午前九時出発、日帰
りで「鼓会」は丹波の(株)西山酒造
場へバス旅行、ボタン鍋としぼりたて
を料理旅館「大和」で。

★健康グループ芦山(吉田)紀次社長
が、発会と健康食品、健康製品の説明
会を三月十三日(水) 午後一時半より、
尼崎市総合文化センター七階(アルカ
イックホール内)06(487)080
2において開催。講師・薬学博士・中
国漢方医加南先生他

電話(06)431-6089
電話(06)431-6348
FAX(06)431-6348

★三月十七日正午トアロード東園
で、文啓発氏の長男志恒さんと村上実
氏(レストランハイウェイ)の長女恵
子さんがゴールイン。おめでとうござ
います!

SPECIAL MESSAGE 神戸百店会だより



★丸善・神戸元町店 「世界のオルゴール展」

世界の人々を魅了し続けている「オルゴール」は、1796年スイスの時計職人アントワヌ・フアブルが生み出した。
丸善・神戸元町店では3月14日（木）19日（火）、10時～19時、2Fギャラリーで「世界のオルゴール展」を開催。スイス・ドイツ・アメ

リカなど各国から集められた逸品や、140年の伝統を誇る世界に名を馳せるリュージュ社製のオルゴールなどが展示即売される。
また1F洋品フロアでは3月17日（日）までスプリング・コレクションが開催されている。英国の薫りあふれる直輸入バーバリーの他、丸善オリジナルにもニューコレクションが登場。いち早く春の装いをお楽しみください。

★職人の味

「お可川」の天ぷら

北野の高台にある天ぷら割烹料亭「お可川」の先代の故岡川隆一さんは西日本屈指の天ぷら職人。

「その味を引き継ぐべく腕をみがいています」と控え目に話す三代目の岡川伸矢さん。だが「究極の料理とか鉄人とかいう言葉はあまり好きじゃないんです」と、あくまで「職人」にこだわる。

天茶や天井から天ぷら会席まで、流行に流されない職人の味をゆつたりと味わってみよう。



天ぷら職人 岡川伸矢さん

★伝統の味を受け継ぐ寿司「又平」

無口だが、人の良さそうな大将が

出迎えてく

れる。古く

から店を構

える寿司屋

「又平」。

「毎日をこ

つこつ、太

切に頑張っ

ています」

と謙虚な尾

照れ屋の大将は？



崎又一郎さんは照れくさそうに話してくれた。ここの寿司の特徴は小さめの《しやり》。口に運びやすく、味もたくさん楽しめるので女性客に大変人気がある。ネタも生きたままのエビと、新鮮なアワビやカニで舌鼓み。ここの一押しは何と言っても焼き寿司だ。一度にぎった寿司をオーブンで焼く。日本酒とともに相性がいい。

■又平

神戸市中央区下山手通2・11・26（生田神社前）

078・331・09935

営業時間 17時～売り切れまで 無休

★ユーハイムから ひとかけらの春を贈ります

春らしいオリジナルパッケージにつつまれたお菓子たち。ホワイトデーのプレゼントにはぴったりで。

びよんびよん跳ねる猫の形のビスケット。裏はチョコレートでコーティングされている。

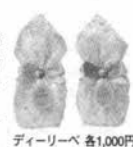
たまごみたいな形がかわい
い。アーモンドチョコレート
にバステルカラーの糖衣がけ
をしたドラゴンジェ。



カッフェンゲベック500円（12枚）

み？

4種類のハートビスケット
の詰め合わせ。どのハートが好
み？



ディーリーベ 各1,000円



プリメール 600円



シンギングバ
ードボックス
220,000円～

■丸善・神戸元町店

神戸市中央区元町通1・4・12

078・391・6003

3月は休まず営業

神戸の文化財はいま 〈その四〉

阪神大震災と神社建築の復興 伝統的建築に最先端工法を取り入れる

加藤 隆久

〈生田神社宮司・神戸女子大教授〉



石鳥居（二の鳥居）が砕け落ち、一の鳥居の奥の拝殿が消えた生田神社（1995年1月17日 米田定蔵撮影）

平成七年一月十七日早朝、震度七の直下型激震が、阪神・淡路を中心に発生し、兵庫県民誰ひとりとして予想もしていなかった悪夢そのものの出来事が起こりました。特に阪神・淡路地方を中心にして、家屋、ビル十八万余戸が全半壊、焼失し、六千余名の尊い人命が失われました。

神社界の被害も甚大でした。本殿、拝殿の全半壊四十五件、社務所の全半壊五十一件を中心にして、本務神社の被害は百八十四社、兼務社の被害が二百八十四社、境内の宗教施設、建造物の損壊、特に鳥居、灯籠の倒壊損傷は二千基を超えるという状況でした。特に、神職二名と夫人一名の死去という非常に痛ましい事故があり、まことに痛恨の極みでありました。こうした中において、被災地の神社も幾多の困難や問題を抱えつつも現地では復旧から復興へ、そして新たな建設へと苦しみの中にも力強い歩みが続いています。こうした折から、震災の体験を生かしていま一度、神社建築のありかたを考えてみることは大切ではないでし



新しい二の鳥居は66年前に伊勢神宮ご正殿の棟持柱に使われていたヒノキが提供された

ようか。

今回の地震により激甚地の境内に建っていた石灯笼、石玉垣等石造物

はほとんど倒壊してしまいました。

社寺建築は、礎石の上に柱をおき、

上に重い瓦を乗せた屋根を持った建

築様式で、壁が少ない吹き抜け構造

になっていて直下型地震には脆く、

基礎が動いて柱がずれ、大半が倒壊

の憂き目を免れませんでした。

私が奉仕している生田神社におい

ても本殿の倒壊は免れたものの、木

造の柱に亀裂が入ったり、歪みが来

ていました。木造の拝殿は柱が礎石

から抜け、大屋根がそのまま地上に

這ったように倒壊、楼門は柱と重層

部の間の接合部分が破損して傾斜し、

西門の重い瓦はずり落ちました。大

正六年に建立された石の大鳥居は根

元からこなごなに倒壊、石灯笼、石

玉垣は申すに及ばず倒壊してしまいました。

建築物の中で神社

建築ほどすばらしい

ものはないとかねが

ね私自身思っています

したが、翻って考え

てみますと、おしな

べて神社建築は「地

震・雷・火事・台風」

に対して無力、無防

備であります。つま

り、無防災建築とい

えましょう。この原

因は木造伝統建築へ

のこだわりがありま

す。神社建築の特質

は自然の素材を尊重

し、木の直截性を表

現し、そのいさぎよさを良しとして

きました。そこには自然内部にひそ

む生命力への感応があり、社殿の背

後の鎮守の森との調和や、そこで斉

行される四季折々の祭祀と建築様式

の調和によって成り立った自然環境

を重視した伝統的思想が読み取れま

す。

建築要素の特色として空間的には

シメトリースケールのもの、時間

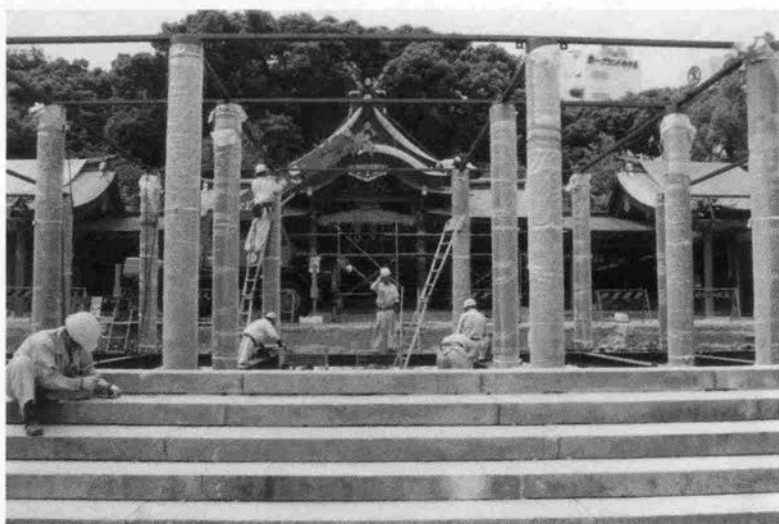
的には永続性を考えて堅牢な素材と

して石造の鳥居や灯笼、玉垣を建て

たり、たとえ木造でも式年造替を考

えて更新することを旨としています。

そこには永遠性に裏打ちされたモニ



拝殿の柱は26本の鋼管コンクリート。鋼管の中に高強度のコンクリートが充填されている奥の本殿は柱などが歪んでいたが、補修・修復された

(P.95~97の写真は生田神社提供)

ユメンタリティー(記念性)の要素

が強いからであります。しかる

に石造物は構造的に地震に弱く、木

造は時代の変化に晒される危険性が

あります。特に直截的表現から構造

上「地震・雷・火事・台風」に無防

備な点が多いのです。これからの神

社建築が防災的な記念性ということ

を重視するならば、原型をきわめる

ために新しい時代を通じて新しい何

物かを付加し、習合させ、時には廃

棄することによって達成して行かね

ばなりません。したがって、これか

らの神社建築を考えますとき、伝統

を重んじながらも現代の環境条件に



拝殿の屋根組は宮大工による伝統的神社建築が守られている

適合させたものにして行く必要がありましょう。

本殿は神道固有の様式を守り、木造の原形はなるべく保持して行かねばならないと思いますが、本殿以外の社殿は不燃性、耐震性のあるものに、耐風設計を推進していく必要があります。今回の震災の中にあつて最も強かったのは樹木でした。昔から「地震が起ったら藪へ逃げる」という教えがありますが、まさに根の張った森の樹木は強靱でありましたし、激甚地区にあつて街路樹が倒壊の住宅を救った例が幾つかありました。鎮守の森は大災害時の防災拠点となるに相応しく、今後、新しい鎮守の森を育成して神社を再生して行くことが最も重要であります。

さて、かかる大震災を体験した私の奉仕神社では、建築業者とよくよく相談した結果、次のような設計と工法により目下復興に励んでおります。つまり伝統様式を、守りながら可能な限り強度の高い拝殿とするために耐震構造上、最先端の工法を採用することになりました。

戦後の焼け野原に再建された伝統的木造建築の拝殿も、この度の大地震では柱脚部や柱―屋根の接合部に大きな損傷を受け倒壊しました。そのため今回の復興計画では、二十六本ある柱のすべてに《鋼管コンクリート柱》を採用、鋼管には世界一高強度のコンクリートを充填して高い構造耐力を持たせるとともに、柱―

屋根の接合部分には鋼鉄の鋳物を使用して、現行法規の三倍の地震加速度、さらに上下動に耐える「耐震神社」としてよみがえらせることにしました。

また日本の伝統的な社殿建築に見られる組み物は、基本的に斗(ます)と肘木(ひじき)から構成され、斗は支点、肘木は梁の役割を持って屋根の荷重を柱に伝えます。柱頂部にある大きな斗は「大斗(だいと)」とよばれ、通常化粧材として柱に接合されますが、今回倒壊した拝殿では、この柱と大斗の接合部分に損傷が集中していたことが判りました。そこ

で新拝殿には大斗に鋼鉄の鋳物を使って構造材の役割を持たせ、柱と一体化させることで構造体としてより高い強度を持たせることとしました。鋳鋼は、木造の趣をそのまま表現でき、かつ高い強度を確保することが

できる特徴があり、構造材として最近幾つかの建築物に使われ始めていますが、社殿建築での採用はこれが初めてであります。

この度の復興計画は、最先端の構造技術と伝統工芸を巧みに融合しようという試みであり、社殿など伝統

建築物への新手法を世に問いたいと思っています。今後全面的な復旧は本年六月頃になる予定であり、皆様の暖かい御支援にこたえるためにも耐震性のある神社建築で復興したいと考えています。



11月30日に行われた拝殿上様式。全面復興は今年6月の予定

12月12日夜に行われた本殿正遷座祭の加藤宮司。冠に木綿髪(ゆうかつら)をつけ木綿褌(ゆうだすき)をし明衣(みょうえ)を着装した

首の回りに草色のタオルを巻き付けて、ジンは洗面所の鏡に向かった。オレンジ色のビキニパンツの上から、三十才の訪れを示す贅肉の塊がせりだしている。

横の棚からスプレーを取ると、ジンは針鼠のように垂直にたった黒い髪の毛に勢いよくふきつけた。鏡に向かってほほ笑みかけてから、油でべとべとになった髪の毛の束を手でぐしゃぐしゃと掻き交ぜ、金属の櫛で水平に撫でつけた。

だが、しばらくすると反抗的な髪の毛は垂直に戻った。ジンはパンツを脱ぐと、浴室に入りシャワーの栓をひねった。生ぬるい水がほんの少し出て、やがて凍るようにならなくなった。また故障だ。彼は仕方なく小鼠のようなペニスに集中的にシャワーをかけた。ペニスを清潔しておくことは悪いことじゃない。

黒と白の縞模様のバスタオルで濡れた体を拭き拭きして、水色のカーペンターズボンをはき、グリーンのTシャツに着替えた。そのかつこうはサキのお気にいりだったから。それに、そのズボンをはくと足が長く見えるのだ。世間は第一義的に人格より足の長さを問題にする。

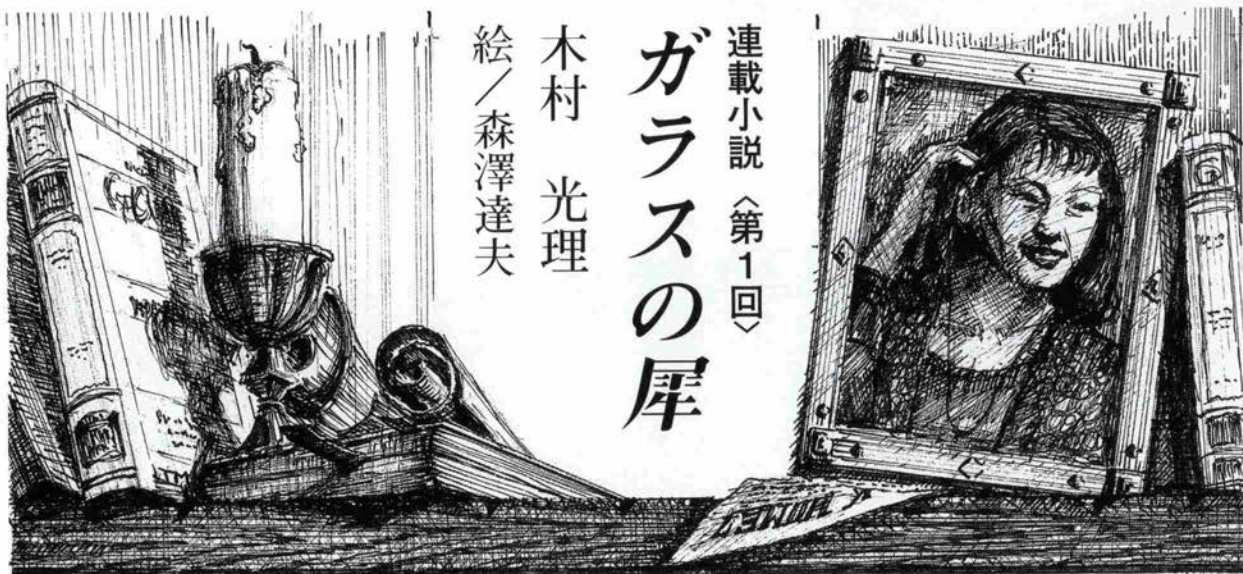
ジンは浴室を出ると、食堂に入った。食堂は一方の壁がガラスで出来ていて、日の光が床に溢れていた。光がもつとも強く注いでいるところに、椅子を出してジンは腰掛けた。光の粒が彼の周りでキラキラ舞った。

「ひさしぶりですね」と、ジンは作り声で独り言を言った。

「正確には一年と九カ月と十二日です」

ジンの言葉で四メートル四方の空間が僅かに揺らいだ。彼はズボンのポケットからライターを取り出すと、火をつけた。炎が蛇のようにくねくねと動いた。

テーブルの上では濃い緑のガラス瓶が待っていた。その中から黄色い錠剤を二粒取り出した。精神安定剤。ジンは飲もうかどうか迷った。複雑な問題だ、とジンは思った。



連載小説 〈第1回〉

ガラスの犀

木村 光理

絵／森澤達夫

☆

予定の一時遅れでサキがやってきた。

ジンは製氷室の中にいるようにコチコチになってサキを迎えた。テーブルを挟んで、二人は向かい合って座った。三十八度線を隔てているような緊張の中で「このミルクおいしいわね」と、ミルク中毒のサキがコップを手にとりて言った。

「腐りかけさ」とジンはこたえた。君のために今朝牧場から取り寄せたんだ、そんな風に言うつもりだったのにうまく言葉にならないかった。

「そうだと思った」

深い溜め息をつきながらサキが言った。あの頃と変わってない。全然変わってない、とサキは思った。

「どう？ うまくやってるの？」

ジンの横顔を眺めながらサキが続けた。

「まあまあさ」

目をそらせてジンは言った。言ってしまったから、全然駄目だ、とジンは思った。こんなはずじゃなかったのに。どうしたんだろう。言葉がうまく出てこない。君といた時と比べると毎日が砂漠のようだ、僕はもう一度水分を必要としている、サキ！君という水分を、そんな風に言おうと、何度も練習したのに。

「ジンが作ったの？」

ガウディばりのケーキをフォークで突き刺しながらサキが言った。ジンは黙ってうなづいた。

「やっぱり、あなたが作ったの」

サキはケーキのかけらを指でつまんで形の好い口の中にほうり込んだ。

「練り菌磨きの味がするわね、昔とおんなじね」

そう言って、サキが笑った。

「有り難う」とジンが言った。

「何が？」

「……うまく言えないけど、君はいい人だ、全然変わってない」

「私が？ まさか」

「僕たち……もう一度……」

そこまで言ってジンはまた言葉につまった。サキはテイスチーパーで指と口の周りを拭いながら、ジンの言葉を待った。

「おいしくない？」とジンはきいた。

「少なくとも石鹸じゃないわね」

「ああ……あの頃もそう言っただよ」

「あの頃って？」

「一緒に住んだ頃」

「そうよね……」

そう言って、サキは牛乳を口に運んだ。おそらく何も変わってないし、この先も何も変わらないだろうと思いがら。

☆

ジンは地下鉄を降りて、エスカレーターを早足で上り、A17の出口から地上に出た。そこは不揃いの高層ビルの谷間だった。その中の化石みたいな古びたビルを目指してジンは歩いた。乾いた風が頬にあたった。歩くことに飽きると、ジンはほんの少しスキップを踏んだ。

サキの描いた地図のとおり場所、そのビルはあった。ジンは緊張しながら正面のガラス扉を押した。すぐに鼠色の制服を着た守衛が口元を歪めてやってきた。ジンはサキに貰ったカードを取り出して、彼の目の前に差し出した。守衛はちえっ！と舌打ちすると、残念そうに行ってしまった。

ジンは赤い絨毯を敷いた一階の廊下を奥の暗闇に向かって真つすぐに歩いた。廊下が壁に突き当たると、今度はコンクリートの階段を上った。灰色のスーツを着た何人もの男が彼と擦れ違った。彼らはみんな黒ぶちの眼鏡、ごしにジンを睨みつけたが、殴りかかってはこなかった。階段を上るにつれて、擦れ違う男の数は増していった。百十一段目まで来ると、ラッシュアワーの電車の中のようにになった。来る時間を間違ったのかもしれない。足が痛くなったジンは立ち止まり、靴を脱いだ。コンクリートの床はガラスのようにひんやりとしていた。

五階まで上がつてくると、ジンは左側の廊下に出た。

そこにも赤い絨毯が敷いてあった。ジンは靴を脱ぎ、手に持って、そのうえを歩いた。絨毯には裂け目ができていて、所々に水が溜つていた。濡れないように走り幅飛びをしながらジンは進んだ。

途中で清掃婦のおばさんに出会ったジンは、彼女が行きすぎるのを待った。だけど、彼女は何かの切れつばしに夢中になっていて、その場を動かうとはしなかった。

ジンは仕方なく彼女の鼻先でびしやりと手を打った。彼女はゆつくりと振り向いた。彼女は作業服の下に高価な絹のストッキングをはいていた。首にも青い絹のスカーフを巻いていた。それがサキだった。

大きく見開いた目で、彼女はじつとジンを見詰めた。

肉付きのいい頬が縦に細かく震えた。あまり長い間見詰められたので、ジンはうつとりとして気を失いそうになった。

「どうしてここへ来たの？ 来ないって約束だったじゃない」とサキが言った。

「……約束を守る歳じゃないよ」

「それなら、朝のうちに来てくれたらよかったのに。朝のうちなら楽しめたのに」

「楽しむだなんて、とんでもない」

ジンがそう言いかけた時、のつばの男が猛烈なスピードで二人の間を通り過ぎた。その風圧でサキとジンは廊下を隔てて両側のドアに離れ離れにへばりついた。男が見えなくなってしまうから、「今日は帰って」とサキが言った。その後すぐに彼女は元のように、ジンを無視して床の上の屑や埃と格闘を始めた。

☆

もう少し頑張れば小学生相手に鯨みたいにでかい契約がとれたかもしれないが、サキとの約束を考えて早めにジンは事務所に戻っていた。これでまた昇進は遠のいただろう。でも、そんなことはどうでもいい。この間ふいに職場を訪ねたことでサキが気を悪くしているんじゃないか、ひよつとすると今日の約束はすっぱかされる

んじゃないか、そうジンは心配してたのだ。

だが、そんな心配は杞憂に終わった。サキはスイスイと空気を切るようにしてやってきた。

ジンは同僚のタケシにサキを紹介した。

「やあ」と言つて、タケシは彼女に手を差し出した。

「こんにちわ」とサキがこたえ、握手をかわした。

「随分冷たい手をしているのね」とサキが言った。

「この事務所じゃみんなそうさ」

「……ジンだけじゃないのね」

「冗談だよ、冗談。みんなってわけないよ」

「でも、ほんと、ジンは冷たいのよ」

「僕のは父親譲りなんだ。アイスクリーム作りの職人だったから」

「それも冗談？」

「まあね」

にやりと笑つてタケシが言った。こいつみたいにしゃべれたらいいのにな、とジンは思った。

「来週、私の家でパーティーをやるの。お誕生日なのよ。もし良ければジンと一緒にあなたも」

右側の頬にえくぼを浮かべてサキが言った。

「幾つ？ 聞く失礼かな」と、タケシが言った。

「私じゃないわ、私の飼つてるハムスターよ。どうかしら、来てくれると嬉しいんだけど」

「ほんとにいいの？」

タケシがジンを見て言った。ジンは静かにうなづいた。

「冗談しか言わない人の集まりなの」

「そうか……それなら、喜んで」とタケシは言った。

事務所を出ると、日の暮れかかった街をサキとジンは並んで歩いた。十月にしては冷た過ぎる風が吹いていた。地面が揺れるくらい大きくしゃみをしてから、ジンは言った。

「どうしてパーティーにタケシを誘つたの？ 初対面だろう」

「だってあなたの友達でしょ」

「二人だけのパーティーを開くって」

「でも……二人きりでいるとまた駄目になっちゃういそうな」



「どうして？」

それには答えずにサキが言った。

「あなたの書き掛けの脚本はどうなっちゃったの？」

「あれは……冬眠中さ」

「どうして？」

「忙しいからさ」

「そうなの……きつとりつばなセールスマンになるつもりなのね」

「そうかもしれない」

「かわいそうね」

サキが溜め息まじりに言った。

☆

ジンはブレイヤーにレコードをのせた。針が最初の溝にゆっくりと落ちていった。

「いい音だろ、これを聞いてると気持ちが開放されるんだ。カキーンと晴れた青空に向かってどんどん広がっていく」

上ずった声でジンは言った。サキと二人きりでいることで叫び出したくなるほど嬉しかった。このまま徐々に昔に戻っていけるんじゃないか。そんな予感さえした。

しかし、サキは「ずいぶんゆっくりとした音楽ね」と、感動した様子もなく言った。

「そうかな」

「それにとつても粘っこいわ」

一瞬、何かがほんの少しずれてるようにジンは感じた。音楽にあわせて昔のように一緒に踊ろうと言いついても、きつとノートの返事が返ってくるだろう。昔ならなんだって共感できたのに。何故なんだ。

「あの頃より髭が濃くなったんだ。変だろ。朝剃っても、夕方には芝生みたいに生えてくる」

音楽から話題をそらそうとして、頬を手でさすりながらジンは言った。

「若返ったのよ、きつと」

「まさか」

「私と逆ね」

「……サキ」とジンは息を詰めた。そして、緊張しながら、彼女の肩に手を伸ばした。

その時、レコードが止まり、湯沸かしが沸騰を告げてピーピーとなり始め、玄関のドアチャイムが鳴った。なんて間が悪いんだろう、と思いながらジンはドアを開きに立った。

後ろで「私、そろそろ失礼するわ」とサキが言った。

へづく